

総括

行政座談会

今年度の行政座談会が、6月20日から22日の3日間にわたって町内3会場で開かれ、延べ50人の町民の皆さんが参加しました。
今回の行政座談会は、平成19年度の町づくりについて説明するとともに、地元購買の意識向上を目的とした「地販地消」や開催を目前に控えた秋田わか杉国体に向けた取り組み、家庭ごみ有料化などの課題について町民の皆さんのご意見やご要望をお聴きして、今後の町づくりの反映させるために開かれました。
今月号では、各会場で出された主なご質問に対する回答やご意見を紹介します。

道路整備について

質問 町の幹線道路整備に対する考え方は。

回答 旧町村から継続してきた幹線道路については基本的に引き続き実施する。なお、新たに美郷町として計画する道路については、基本的には南北、東西のラインで幹線道路として整備すべき部分を優先して整備したいと考えている。

県道角館六郷線は、千畑地区と六郷地区を南北につなぐ主要な道路であるが、国道で分断され仙南地区へ続く道路へは空白部分であった。そのため、美郷交番から仙南地区の中央部へ通じる道路に入れるように整備をしている。また、歩道についても県道角館六郷線の全線整備を県へ要請している。南北を結ぶ幹線道路として町の東側では山麓農道が整備されている。ただ、南北を結ぶ西側の道路がないため、今後どのような場所がふさわしいか新たに検討したい。

質問 幹線道路以外の道路整備に対する考え方は。

回答 町の道路整備についての考え方は、まず基本となる幹線道路を整備し、集落間を結ぶ道路を整備していくこと。現道舗装については、宅地が隣接している道路を基本的に優先させたい。

集落間を結ぶ上で重要となる路線、交通量が多く拡幅が望まれる箇所、地域住民から要望があった箇所について、優先度や緊急度、必要性を考慮しながら整備したい。

なお、皆さんから要望があるような、側溝のふたやガードレールの敷設などといった部分的な整備にも対処していきたいと考えている。

地販地消について

質問 近隣市に大型ショッピングセンターが建設されるとのことだが、町が推進している「地販地消」にどのような影響が考えられるか。

回答 各種大型小売店舗の立地がすでに進んでいる現状を踏まえると、大型店が相互に影響し合うのではないかと考えている。本町の立地上、近隣市の経済圏と互いに支え合いながら生活しているのも現状であり、ある程度の雇用創出も期待される。

町の「地販地消」の考え方については、自分たちの地域で買い物(投食)してもらえれば、町の税収増につながり、それによって自分たちが住む町の行政サービスの充実や社会資本の整備というかたちで還元されるといってもいい。調べによると美郷町民が町内で買物をする率は現在2割程度しかないということもあり、少しでも町内で消費してほしいと考える。「地販地消」は町民と商業者の方々の意識改革の取り組み。美郷町で生活している方がどういったことを求めているかなどを調査し、町としてどのような取り組みができるか考えたい。

学校教育などについて

質問 少子化が進んでいるが、児童数が減少している小学校は今後どうなるのか。

回答 学校統合への考え方ということになるが、たとえば複式学級(二つの学年以上の児童を一つに編成した学級)がでてくるということが一つの基準だと考える。学級が少なくなり、教務主任(学校で教育計画の立案や教育事務に関する連絡・調整・指導にあたる職)が学級担任と兼ねてやらなければならぬ事態になれば学校運営上、過負担が生じる状況になってくる。

少人数の学校で不都合があるのかという意見もあるが、ある程度の規模の集団生活であるがゆえに得られる勢いや権利ということもあつたりする。町としても子どもたちが、より健やかに育つためにどういう環境が望ましいかを、さまざま意見を募りながら検討し、対応で遅れをとらないようにしたい。

質問 子どもたちの安全を守るために、子ども見守り隊ステッカーに替わる対策はないか。

回答 子どもたちを守るといふ町民の意識醸成をしていくことが重要。ステッカーについては、子どもたちを守るといふ意思表示と意識維持のための取り組みととらえている。今後、町として取り組むことができる、さまざま方法を考えている。

家庭ごみの有料化について

質問 家庭ごみの回収を有料化することについて聞くが、どのようなことなのか。

回答 町では、ごみの減量化や再資源化について、さまざまな取り組みをしてきたが、ごみの排出量は年々増加しているのが現状。ごみ1トン当たりの処理料金は人件費を除き1万3千円程かかっていることもあり、行政コストとしての負担も大きい。家庭ごみの有料化を実施している他市町村では、導入後は減量化、再資源化の効果が大きく、本町においてもごみの排出量抑制が期待される。

具体的には、現在のゴミ袋の代金に、ごみ処理にかかる経費の一部を上乗せすることを考えている。県内ですでに実施している自治体では、袋一枚につき数十円の上乗せで値段が設定されている。詳細についてはまだ検討中であるが、町でもその価格を参考にしながら値段を決めていく方向である。町民の方から見れば、ごみ袋の値段が値上げされるといった形になる。実施時期についてはまだ検討中だが、来年4月からの実施に向けて協議を進めている。

質問 資源ごみの回収をもっと細分化させれば、ごみの排出量は減っていくのではないか。

回答 ご指摘のとおり可燃ごみ・不

燃ごみの中に資源ごみが混ざっているのが現状。さらに周知を図りたい。また、生ごみはきちんと水を切って出せば、量を減らせると指摘されている。家庭での生ゴミ処理機の購入に町で補助金を交付しているのも、ぜひ活用していただきたい。

なお、大仙市と美郷町でごみ処理施設を運営するために費用を負担しているところであり、負担内訳は均等割と利用割からなっている。ごみが減ればすなわち町の負担が少なくなり、その分ほかの政策経費に予算を充てることできる。再資源化を徹底し、ごみを減らす取り組みを各家庭でもさらに行ってほしい。

意見 近隣市ではごみ袋の値段が高いということもあり、家庭から排出するごみを減らすよう、若い人はスパーに設置されたりサイクル回収箱を利用するために、発泡スチロールのトレーやペットボトルを袋に詰めて買い物に行っているようだ。

現在、町内の小売店では町外の量販店のように、資源化できるものを回収するといったような取り組みが不十分だと思う。交通手段が限られる高齢者の方のためにも、町や地域で取り組みを進めることで、自然にごみが減量化されていくのではないか。また、ペットボトルやビンなどの再資源化できるものについては、子どものうちからリサイクルの考え方に触れる環境を作るべきだと思う。

不法投棄対策について

質問 不法投棄が後を絶たない現状をどう考えるか。

回答 家庭ごみの有料化について大仙市と協議を重ねている中で、不法投棄が今後増えることが懸念されるという話題になった。現在、ごみ袋の販売でご負担いただいた経費の一部を不法投棄対策に充てることで協議しているのでご理解を願いたい。

不法投棄は、最終的にはモラルの問題になってくる。町でも対策として、水環境保全に向けた啓発条例を今年度中に制定する予定であり、折に触れ町民に環境意識の啓発を行う。不法投棄をすれば環境破壊という形で私たちの生活に悪い影響を及ぼすことになるということを理解してもらおうとともに、不法投棄を絶対に許さないという強い姿勢を示したい。

